

命ノミッション その3

安達 真魚



安房神社(2024.5)

ヒミコ

戦い破れて 悲しみにくれても

私は嘆くことはない

実の入り少なく 飢えに苦しんでも

私は嘆くことはない

神の告知 アマテラス

伝えたい言葉がある

伝えたい思いがある

人を惑わし 勇気づける

精魂苦闘 心火を燃やす

伝えたい言葉がある

伝えたい思いがある

solar eclipse solar eclipse 祈り続ける

人を惑わし 勇気づける

災い多くて 打ちのめされても

精魂込めて 心火を燃やす

私は嘆くことはない

solar eclipse solar eclipse 祈り続ける

傷つき疲れて 哀れな姿でも

solar eclipse solar eclipse 祈り続ける

私は嘆くことはない

神の告知 アマテラス

雀

とめどない涙　いつ尽き果てる

巣箱の雀　どこの誰

波頭の中に　見えてくる

なすがままに　あずけた命

君のために　委ねた未来

目に浮かぶ母の姿　遠い記憶

焼野原古巣の村　胸に沁みる

運命の受け入れ　悲しみの中に

定めた覚悟　風に消えゆく

どんな運命が　自分をここまで

どんな悪戯が　自分をここまで

弄（もてあそ）ぶのか　地の果てまで

誑（たぶら）かすのか　霧の彼方

君の愛にたより　君の愛に答えて

君の愛にたより　君の愛に答えて

君の愛だけを支えに生きている

君の愛だけを支えに生きている

とめどない涙 　いつ尽き果てる

戦乱

広がる大地 　水辺の豊かさ

樹は茂り 　鳥は歌う

息づく命 　平穏な日々

闇の中の戦い 　襲い掛かる兵火

燃えさかる炎のなかに 　滅びゆく村里

Forever Friends. 愛おしい人 　悲しまないで

土地は荒れ果て 　家は燃え尽き 　崩れ落ちた

ここには 　もう留まらない

人はだれもこの土地を捨て 　逃げ去った

もう二度と戻ることはない

遠い昔から続く営み

平和な時間が流れていた

今日の命 　明日に繋げるために

何も知らずに 　命を落とした

憎み苦しむ 　理不尽な悲しみとともに

Forever Friends. 愛おしい人 　やすらかに眠れ

墓場と化した 訪れる人 だれもない

ここでは もう生きれない

人はだれもこの土地を捨て 逃げ去った

もう二度と戻ることはない

さよなら 眠りから覚めるまで

さよなら 新しい時代まで

さよなら いつか蘇るまで

プルシャン・ブルー

凄く綺麗 君が好きだ

得意げに 馬鹿みたいに

愛を確かめる 愛を捧げる

少しは妬ましくて 少しは憎らしくて

得意げに 馬鹿みたいに

君に打ち明けた

胸はドキドキ 眼差し閉じた

エモい感情 頭を巡る

悪魔の言葉 Devil's Blue

巧妙な罠 Clever Tricks

Blue Blue Blue Prussian Blue

狂い始めた しびれた体

浅はかに 迷いもなくて

夢は朽ち果てる 夢は遠のく

ほんとは疎ましくて ほんとは許せなくて

偉そうに 上目線で

君を遠ざけた

悪魔の言葉 Devil's Blue

巧妙な罠 Clever Tricks

Blue Blue Blue Prussian Blue

青く横たわる肢体

手を伸ばしても 届かない

悪魔の言葉 Devil's Blue

巧妙な罠 Clever Tricks

Blue Blue Blue Prussian Blue

切ない思い 晴れない思い

隔たる思い 焦がれる身体 (からだ)

少年の夢

一瞬で消えた まどろみのなか

戸惑い 迷い 戻れない 体

心の疼き さざ波が立つ

ためらい 惑い 動かない 手足

自由な花園 歩き回っている

まだ見たことのない 自分の未来

Illusion 幻想の世界 Illusion . . . fantasy

人が群れている どこかで見た顔

汚い こわい 届かない 目線

何か話してる 聞き取れない

拙い うとい 浮かばない 知能

連なる山々 怯え立ちすくむ

とてつもない力 ぼくを動かす

Illusion 錯覚の世界 Illusion . . . fantasy

輝く内海 ここはどこなのか

つかみどころのない 固定観念

Illusion 錯覚の世界 Illusion . . . fantasy

古都感傷

君と過すごした ひとときは

古い街並み あたりは沈しんんでた

南禅院は 雨に煙けむって

薄ら寒さが 沁しみるこの身に

つらい思い出 二年坂

八坂の塔が 傷跡包つつんでた

祇園四条は いつものように

カフェの外は 人が流ながれる

大切な人 二度と戻もどらない

憂うれいに沈しんむ 古都の灯火とうか（ともしび）

蓮池傍（そば）の 天龍寺

大方丈で 二人は横よこたわり

微笑えいごみばかり 言葉ことばなくして

池の山並み 胸むねに沁しみる

通とほい続つづけた 丸太町

熊野神社の 片隅かぐも待ち合わせ

平安神宮 心こころのままに

遊あそび疲つかれた 子供こどものように

愛おしい人 旅立ったまま

切ない想い 古都の灯火(ともしび)



河津桜 (2024.02)

トワイライト世代 その4

安達 真魚



夕日（取手市 2023.12）

鉄の王キム・スロ

中国と韓国の連続TV時代ドラマは、目に留まって面白そうなのがあれば録画して視聴している。ドラマの時代背景やその時代の衣食住、街並み、自然などがビジュアルに再現されるので興味深い。また、それぞれのドラマには、争乱、権力闘争、格闘シーンなどの娯楽要素も多く含まれている。タイトルの「鉄の王キム・スロ」は、2023～2024年にかけて放送された。10年前くらい前の作品で、今回は再放送であった。古い時代の物語なので、視聴するのに、とくに問題になることはない。

キム・スロは、金官伽耶国の始祖で、初代首露王である。在位は、42年～199年で、158歳で死亡したと伝えられている。王妃は阿踰陀（あゆだ）国の王女の許黄玉（ホ・ファンオク）とされる。ドラマでは、天竺国の大商人の娘となっていた。キム・スロの158歳は疑問だが、いずれにしても長生きしたらしい。時代は、

1〜2世紀頃で、中国では後漢の洪武帝のころ、日本では、弥生時代の終わりのころだ。1世紀から6世紀中頃にかけて、朝鮮半島中南部の洛東江流域には、韓民族の小国が分立していた。伽耶または伽耶諸国と呼ばれ、もともと三韓の中の弁韓といわれた地域にあたる。金官伽耶国は、これらの小国の一つで、現在の韓国慶尚南道の金海市に位置していた。

金官伽耶国は、建国後4世紀ころまでは、伽耶諸国の盟主の地位にあつたが、その後は、高靈（コリヨン）の大伽耶が伽耶諸国の中心となった。6世紀（562年）に新羅が伽耶を併呑するまで、伽耶諸国は統合されることはなく存続していた。なお、高靈の大伽耶は、ドラマで重要なキーパーソンの一人だったスロの異父弟である伊珍阿跂（イジンアシ）が、建国したといわれている。

魏志倭人伝には朝鮮半島の帯方郡から邪馬台国までの行程が記されているが、経由地のなかに「狗邪（クヤ）韓国」がある。この「狗邪韓国」が金官伽耶国である。また、日本では馴染みのある「任那」という地名は、当時の倭国からすれば、伽耶を代表する金官伽耶国の別名

だったという説もある。

ドラマは全32話であるが、物語の大筋を記しておく。主人公のスロは、北方民族の族長の子であつたが、父は戦死し、生まれた直後、実母と生き別れになった。浜辺で拾われたスロは、狗邪国（金官伽耶国の前身）の製鉄所の鍛冶長の子として育てられる。成長して鍛冶職人の技術を身につけたスロは、あるとき、祭司長から王になると信託を受ける。その後、幾多の試練に見舞われながら、狗邪国を含む9個の村と周辺の3の小国を束ねて伽耶の国王に即位した。ドラマでは、斯盧（サロ）国（新羅の前身）との関わり合いが、物語の構成上の重要な要素として描かれている。

ドラマのタイトルにもあるように、スロは鉄の王であり、製鉄と鍛冶の技術に長けていた。鉄鋌（てつてい）と呼ばれる武器や農具を作る素材が、映像には何度も登場している。当時、すでに鉄の道具を作ることがいかに重要で、国力の象徴であつたことがわかる。周辺の各地

でも鉄製品の製造が行われていた。ドラマのなかの製鉄現場は、現在の製鉄所の高炉のような作りになっているのには驚いた。

鉄は当ても貴重なものであり、周辺の諸国も金官伽耶国の鉄とその製鉄技術を欲しがっていた。スロは即位後、帯方郡の代表と倭寇（ドラマではそのように呼んでいる）の頭領を集め、ひとつの提案を行った。金官伽耶国に対する敵対行為を止める代わりに、それぞれに商館を貸与して交易を促進するとともに、製鉄技術を教え広めていくという内容だ。度量の大きな王だったことが想像される。このころに、帯方郡、伽耶、倭を結ぶ海のネットワークが構築され、鉄を中心とした交易が行なわれていた。魏志倭人伝の行程もこの流通路を踏襲しているのである。

伽耶が繁栄したのは、日本でいえば、弥生時代終わりのころから古墳時代にかけての年代である。この時代に、中国、朝鮮、日本の間で頻繁に交流していたことに驚かされる。伽耶の歴史については、多くの歴史本などが出

版されているが、一通り読んだだけでは、その歴史の流れを理解するは簡単ではないと思った。これからも、それぞれの国の歴史書や古墳の調査、分析から、多くの歴史的な解明が行われていくと思う。

今回、伽耶の国々や当時の日本と朝鮮半島との交流史などに大いに興味を持つようになった。TV時代ドラマは見ることで体が楽しいことであるが、これからも知的な好奇心を刺激する歴史ドラマが放映されることを期待したい。

命より健康が大事

久しぶりに年寄り仲間が集まれば、まず「お元気ですか」から話しが始まる。それは健康かどうかの気遣いであるが、裏返せば、病気の話しの糸口にもなる。人によつては、自らの病気を自慢げに話す、いわゆる病気自慢をする人も多い。ある同窓会で、各自が近況を順次述べていくときに、幹事が、「今日は、病気の話しと孫自慢

は禁句とします」と宣言した。それはいいことだと、賛同する者が多かった。ネガティブな病気の話しや、孫の自慢話を聞いても、あまり面白くないものだ。皆がそれぞれ何らかの体の不調を抱えていることも多いし、それぞれの事情で孫のいない者もいる。

そうはいつでも、高齢者になるほど病気や体の不調に気を配っている。TVでも健康番組が多く、それらの影響もあるだろう。健康番組では、病気や不調のテーマごとに放映されることが多いが、それぞれ予防や克服するための食事や運動が提示されることが多い。それらを逐一実践しようとすると、1日が何時間あっても足りなくなるくらいだ。

あるとき、「『命より健康が大事』という人がいる」と聞かされたときがあった。それほど「健康」そのものを大事にする人がいることに共感を覚えたが、表現のニュアンスの面白さにも感心した。いくら健康に気を配っても、人間の生死は運命であり、ダメなときはダメで覚悟を決めなければならぬ。ただ、生きている間は、へばりついてでも生きていくことが大事で、それは人間を

はじめとする生物としての本能であるし、使命（ミッシヨン）でもある。

高齢者が、少しでも健康寿命を延ばすためには、次の3つを実践することが、自分なりには大切だと考えている。ただ、自分は専門家ではないので、個人的な実践目標だと、理解していただきたい。

○運動すること

とにかく体を動かすことが大事らしい。運動の種目は、TVの健康番組で推奨されるものでいいし、散歩でもいい。できれば、それらの中に、有酸素運動を組み入れることだ。別な言い方をすれば、運動によって、心拍数を上げる時間があることが大切で、すこし汗ばむくらいがいいようだ。散歩であれば、少しだけ早足、軽いランニング、階段登りなどを組み入れると効果がある。心拍数は上げない方がいいと誤解している人もいるが、運動によって心拍数を上げた状態を持続することがいいらしい。確かに、ストレスや病気などによる心拍数の上昇は好ましくないが、運動するときは適度に心拍数を上げた方が運動

の効果ができるようだ。運動の効果を測るには、最近のスマートウォッチを活用するのもいい。スマートウォッチの活用については、別の機会に言及してみたいと思う。

○食事に気を配る

これも、TVの健康番組では頻繁に放映されるので、効果のありそうなことを実践すればよい。ベジタブルファースト、栄養素のバランス、食べ過ぎない、間食に注意、たんぱく質、脂質を積極的に摂取する、不規則にならない、夕食は早めに終えるなど、気を配らなければならぬポイントは多くある。とくに、太らない、やせ過ぎないのが大切だ。なお、最近発行された「糖質疲労」(山田悟著)には、食事の始めにたんぱく質、脂質を摂取すると、血糖値の上昇を抑制できることなど、食事の摂りかたが「科学的根拠(エビデンス)」に基づいて記載されている。注目すべき本だと思う。

○社会性、コミュニケーションを保つ

どんなときでも、だれかとコミュニケーションがとれている状況に身を置くことが重要だ。できれば、日常的に会話ができる相手がいればいいが、仕事でも、SNS

でも、サークル活動でもいいと思う。何かしら自分が社会の中で認識され続けていなければ、生きる張り合いもなくなってしまう。

人間は、生きている間は生きなければならない。生命は貴重なゆえに、死ぬまでは健康でありたい。人生の目標が健康ではなく、生きるために健康が必要だと改めて考えさせられた。

行政サービスの民営化

2023年12月、総務省は2024年秋に手紙とはがきの値上げを行う方針を示した。実施されれば消費税の引き上げを除き30年ぶりの値上げとなる。ただ、30年ぶりといっているのは、手紙についてだけで、はがきは、2017年に、消費税に関係なく値上げしている。どちらにしても、郵便料金の値上げは、郵政民営化(2007年10月)以降も、頻繁に行われてきたと感じる

人は多い。個人的には最近手紙などの郵便物を出すことも少なくなっている、それほど影響はないと思っ
ている。それでも、些細なことだが、手紙やはがきのため
に買い置きした切手の額面が値上げの度に端数が合わ
なくなるのは困ったことだ。

この値上げの背景には、郵便利用の減少が続くなかで、
2022年度の郵便事業の損益が211億円の損失と
なり、民営化以降、初の赤字になったことがある。しか
し、ここで値上げすれば、2、3年後には黒字になるが、
その後は再び赤字が拡大していくと試算されている。法
律の改正が必要になると思うが、民営化以降の郵政事業
のあり方を改めて考え直す時期が近づいているのかも
しれない。手紙や切手がなくなる日がくるのだろうか。

昨今は、事業の公営と民営の線引きがあいまいになっ
てきていることが多い。公共事業というのは、行政のサ
ービスとして行うのが原則で、競争原理を重視して何も
かも民営化すればいいというものでもない。

事業なかで、鉄道、運輸、道路、電気、ガス、上下水

道、放送、通信、教育、金融、医療など公共性の高い業
種は多く、これまで民営化された事業は数多くある。ま
た、モバイル通信、プロバイダー、データセンターな
どのインターネット関連、宅配、介護などは多くが民間
主導で事業拡大されてきたが、今となっては、それぞれ
公共事業といえるものだ。

これらの公共事業は、本来行政が担当すべき不可欠な
事業である。すべて行政で行っていくのは現実的ではな
いので、全部または一部を民間に委託しているというて
いい。したがって、最終的には行政が最終的に責任を持
つべき事業だ。法律などによって、民間業者を指導、規
制などを行ないながら、逆に規制緩和を行う局面もでて
くると思う。民営化した事業の運営がうまくいっていな
いときは、料金、費用、利便性などの面で、歪が発生す
ることが多い。各サービス事業のコストパフォーマンス
が明確に低いときは、どこかに問題を内包している。ど
んなサービスや事業であっても、常に適正に運営してい
くことが望まれる。

公共サービスは、民間サービス事業と競合する場合が

ある。スポーツ施設、会議室などの各種の貸出、フィットネスサービス、路線バスなどがいい例である。これらは自治体の懐具合や地域特性などを踏まえて、民間事業との良好な競合関係を保った上で、サービスを行っていく必要がある。

JR東日本は、2024年3月のダイヤ改正で、京葉線の快速と通勤快速の運行を朝と夕方以降の時間帯で取りやめることを発表した。これに対して、千葉市や木更津市など千葉県内の20の市や町は、JR東日本に対して再検討などを求める要望書を提出した。ダイヤ改正などは、利用者の利便性を一番に考えて行うものだと思うが、大多数の利用者が改悪と考えるダイヤ改正を、自社の一方的な都合で、行なおうとすることに大きな問題がある。事前協議などはなかったのだろうか。公共事業だということをないがしろにしているか、忘れていないか、言いようがない。

公共事業は、独占的なサービスとなることも多い。公共、民間を問わず、どのような事業であっても、低コス

トで利便性の高いサービスを提供するのが大原則だと思う。

書籍について

読書が趣味という人は多い。一方で、趣味でない人も数多くいる。現在はマルチメディアの時代なので、文字主体の書籍（以下、雑誌を含めて本と記す場合がある）以外にも、人に何か伝える手段は数多くある。ネット上の各種の記事や、ユーチューブ、Line、TikTok、インスタグラムなどのSNSも有力な手段になっており、それから日常的に情報や知識を得ている人も多い。しかし、読書したり、何か学習して知識を得たりするときに、本という媒体は、伝統的な手段であり続けている。ユーチューブなどの動画は、活字を追わなくてよく、容易に視聴できるのが最大の利点であるが、その動画の基礎となるテキストやレジュメなどの文字媒体がなかったり、すぐに用意できなかったりすることは、容易さとは逆に、

最大の弱点だと思っている。

自分は、書店や図書館に行くことを一つの楽しみだと思っている。それも、書店の方が新刊書が多く並んでいるので、図書館より書店の方に足が向くことが多い。書店に行くこと自体が、趣味になっているのかもしれない。アマゾンでは、膨大な本のなかから検索できるし、読者のレビューを見ることができ、こちらの方を利用することも多い。しかし、書店のように書棚に本が並んでいるわけではないので、目的の本がとくに決まっていない場合は、アマゾンで検索する必要はないのだ。書棚に並ぶ本のなかから、自分の興味のある本を探し出し、現物を確認できるのが、書店の利点である。しかし、書店で並べることができる本は有限である。また、並べ方などは、それぞれの書店によってポリシーがあるので、目につき易い本の傾向は、書店により随分と違いがあるのは感じている。それにしても、書店は大型の方が、気分は高揚する。

図書館を利用して本を調達する最大の理由は、購入費

用が不要なことだ。逆に、手元に本を残せないのは最大の欠点だ。図書館には、小説や歴史本などのように、時間が経過して古くなっても、内容的に価値の落ちないものも多くある。自治体またはその周辺の地域の資料や本が充実しているのも図書館の特徴だ。自宅の書棚に本を増やしたくない人にとっては、図書館の本を借りて読むのが、スマートなやり方だ。

現在は、紙の本以外にも、デジタルブック（電子出版）やオーディオブックで調達することも可能だ。デジタルブックは、アマゾンの Kindle をはじめ、すでに普及度が高く、学校関係でもデジタル教科書や副読本が普及しつつある。オーディオブックは、もともと視覚障害者向け用途が中心であったが、一般向けとしても少しずつ普及が進んでいるようだ。

出版市場（紙＋電子）のこの10年の市場動向の概要は次のとおりである。

（出版科学研究所調べ 単位…億円）

2014年 2023年

出版全体 17,208 → 15,963 (7.2%減)
紙出版(書籍+雑誌) 16,064 → 10,612 (33.9%減)

電子出版(書籍+雑誌+電子コミック)

1,144 → 5,351 (367.7%増)

この10年で、出版全体では、7.2%の減である。紙出版は、33.9%減と大きく減少している一方で、電子出版は、大幅増となっている。これは、電子コミックが急伸しているためだ。上記の数値ではわからないが、2023年度では、電子出版のうち、90.3%が電子コミックが占める。文字ものなど電子書籍では、「ライトノベルや写真集は比較的好調」だが「文芸やビジネス書、実用書などは不振」のようだ。

以上のことから、電子コミックを除けば、電子出版は十分浸透している状況だとはいえず、年齢が高くなるほど、電子出版の利用は進んでないと推察できそうだ。

身近な年代の高齢者に書籍や文章の読み方を訊ねてみても、「私は、PCやスマホで本は読まない」とか「PDFの文章は、印刷して読む」とか云われてしまう。

まだまだ、文芸やビジネス書などをPCやスマホで読む高齢者は少数だ。

電子出版の本は、まだまだ扱いにくいかも知れない。自分は、現在、中古で購入する本を除いて、有料で購入する本の30〜40%くらいは、電子版で読んでいると思うが、やはり読みにくさなどを感じることもある。電子版の本は、提供元や端末(PCやスマホなど)によってアプリ(Webの場合もある)が異なるため、操作性はそれぞれ違う。目次、改頁、拡大・縮小、しおりの貼り方などそれぞれ違うので混乱することもある。同じ提供元でも、本によって検索ができたり、できなかったりする。また、電子出版物としての性格上、コピー防止のため、引用して自分の編集している文章に貼り付けることなどはできないのが普通だ。さらに、電子版は、家族内などで回し読みがやり難いことと、中古として出品することはできない。

一方で、電子出版の本は、書棚がいらぬし、PCやスマホなどがあれば、重い荷物として持ち運ぶこともな

く、通信手段と購入時またはサブスクのアカウントさえあれば、どこでも閲覧することができる。また、検索機能を使用できれば、そのメリットも大きい。紙の本は今後もなくならないだろうが、電子出版の本は、紙の本を補完する形で、少しずつ普及していくと思う。現在の若者が高齢者になるときは、デジタルについての苦手意識もなくなるし、関連技術も高まっていくので、電子出版の本の普及は確実に高まっていくと思う。

電子図書館サービスについて言及しておく。図書館による電子図書館サービスは、以前より検討され始めており、すでに導入されている自治体も多くある。これからの図書館サービスとして期待される。課題も多いと思うが、本格的に導入されれば、無償または低価格のサービスになると思うので、高齢者にも身近になり、多くの人が利用するようになるだろう。

現在は、書籍が電子化されて保存され、それらを閲覧できるようになった。このことは、歴史的にみれば、近代における数多いイノベーションがなかでも重要なこ

とだと思う。紙が発明されて、紙に文字が記録されて以来の技術革新だ。改めて気にしている人も少ないと思うが、現在は、電子書籍をはじめとするマルチメディアの普及の時代あり、我々の世代は、変遷期に生きているといえる。1〜2世代前の人々にとっては、このような電子書籍で読書することはなかったし、逆に、1〜2世代後の人々にとっては、当たり前前の世界となっているはずだ。

スポーツ志向

子供の頃から体育はそれほど得意ではなかった。学校の課外活動は、家庭の諸事情があったりして、体育系の部活で活動したことはなかった。学業成績でも、保健体育だけはあまり良い点はとれなかったことが多かった。ただ、学校の授業の中で、一番楽しみだったのは、校庭や体育館で行なう体育の時間だという認識は子供の頃からあったことを覚えている。体育の授業が雨で中止に

なり、室内の保健の授業になったりすると、何か損をしたような気持ちになったことも、たびたびあった。

高校では、体育の授業でポピュラーな種目を一通り経験させてもらった。バスケットボールや軟式テニスなど、楽しさが記憶に残っている種目も多かった。一方で、鉄棒や体力勝負の陸上はあまり好きになれなかった。高校最後の体育の授業は、フォークダンスであった。男子校だったので男子ばかりで輪を作って踊ることになるが、何か違和感があり、恥ずかしくもあった。男子校を卒業するにあたって、フォークダンスでも踊れるようになっておいた方がいいというような学校の配慮だったと理解していた。

体を動かすことが嫌いではなかったので、学生時代を通して、体育系の部活を経験できなかったことについては、今でも残念に思っている。自分の周囲にも、体育系の部活経験者は多く、彼らに引け目を感じたことも多かった。

社会人になる前のころから、とくに思いを入れて取り

組んだスポーツといえば、ボウリング、スキー、テニス、ゴルフくらいのものである。それぞれ人気の高い種目であり、誰でも取り組みやすい種目ばかりだ。

スキーは、冬季のリゾート地に旅行気分で出かける気分の方が大きい。滑るとき爽快感は格別なものだった。スキー場までの移動は大変なのだが、当時は、その大変さを乗り越えてでも、スキーをしたいという気持ちが強かった。スキーには、車で行くときが多かったが、雪によるトラブルや事故に何度か遭遇した。それらの体験がトラウマになり、今でも雪道のドライブはやりたくないと思っている。

スポーツは、参加選手が互いに競い合うことが大切だ。この点でゲーム性を有しており、面白味がある。これは、オリンピック競技でも、一般スポーツ愛好者レベルの競技でも同様である。しかし、競技者間の実力差が大きかったりすると、結果に優劣をつけても、あまり意味がなくなり、ゲーム性がなくなってしまう。ゲーム性を保持することは、一般スポーツ愛好者にとっても重要だ。そ

ここで、スポーツ競技によっては、実力差がある場合は、ハンディキャップ戦（ハンデ戦）で行なわれる場合がある。ここでは、このハンデ戦について少し考えてみたい。

一番いい例は、アマチュアのゴルフ競技である。通常、ゴルフクラブの月例競技などでは、パープレイと平均スコアの差などを考慮して、定められた方式により算出されたハンディキャップが与えられ、それを差し引いたスコアで競い合うことになる。したがって、実力下位の者でも、調子が良ければ誰でも優勝する機会がある。トーナメント形式のマッチプレイでハンデをつける場合は、難しいホールの順からハンデ分のホールを選び、それぞれ1打のハンデが与えられる。スコアカードのハンディキャップ欄の数字は、ホールの難しさの順で表記されており、これが利用される。なお、プロの競技やクラブ競技でも上級者のみが参加できる競技では、全員ハンディキャップはなく、これを、スクラッチ競技という。

ゴルフは、ハンデ戦が最も整備されたスポーツの一つであるが、他のスポーツ種目では、必ずしも整備されているとはいえない。ボウリングは、プライベートな大会

にしか参加したことがないので、正確なことは全くわからないが、基準スコアとアベレージスコアの差から容易にハンデ計算ができ、ハンデ戦が行なわれているようだ。スキーは、アルペン競技であれば、過去のタイムの履歴を基に、ハンデ戦が行なわれているスキークラブもあるようだ。テニスは、競技自体がトーナメント形式で行なわれることが多いので、ハンデ戦は考えにくい。ただ、プライベートで練習試合などをするときには、レベル差があれば、ハンデ戦を行った方がいい。自分も、上級者と対戦するときは、各ゲームをファイティン・ラブやサーティー・ラブから始めるようにしてもらっていた。ただ、テニスはハンデ戦のやりかたについてオーソライズされているものがないように思う。なお、スポーツではないが、囲碁は、置き碁形式の対局があるので、最もハンデ戦を合理的に行なうことができる代表的なゲームだと思う。

入社した会社に、たまたまスポーツ施設の部門があった。スポーツについては、当時から興味があったので、そ

の部門に配属されて、新たなスポーツ種目の開発をする仕事ができないかなと思っただけであった。開発したスポーツ種目が普及して、会社の売り上げも上がるという夢物語である。オリンピック競技でも、開催ごとに新しい種目が増えていた。スポーツの競技種目は多様化しており、新たに種目が採用されることはトレンドになっていた。しかし、当時、そのような常識から外れるようなことを考える人は社内になかったし、その部門に配属されることもなかった。

スポーツは、プレイすることも楽しいし、見ることも楽しいものである。最近では、相撲のTV観戦もするようになった。ロシアのウクライナ侵攻はまだ収束しないが、国どうしで戦うのは、スポーツだけにしたいと心から思う。

この数か月、アーチェリーにはまっている。若いときから興味のあったスポーツで、一度やってみたいと思っていた。どこまで続けられるかわからないが、別の機会に、何かお伝えできるものがあればいいなと思っている。



アルペンローゼ (ツツジ科)